校長会報

令和８年度　第１号
発行所
島根県小学校長会
事務局
松江市母衣町 55
県教育会館内
TEL（0852）27-8530
FAX（0852）67-3360

自ら未来を切り拓き 多様な人々と響き合う 豊かな社会の創り手の育成
「～つながり・学び合い・とどける活動を通して～」

島根県小学校長会長
片寄泰史
（松江市立内中原小学校）

一　はじめに

今年度のスタートにあたり、島根県小学校長会長として、会員の皆様にご挨拶を申しあげます。

皆様ご承知のとおり、今、私たちが立つ教育の最前線は、予測困難な変化の荒波の中にあります。生成ＡＩの急速な普及、グローバル化や少子高齢化の進展による地域社会の変容など、学校を取り巻く環境はかつてないスピードで塗り替えられています。こうした不確実な社会において、未来を担う子どもたちの学びを保障し、その命を預かる校長としての責任は極めて重くその重圧を感じておられる校長先生方も少なくないのではないでしょうか。

しかし、私たちは決して一人ではありません。島根県校長会は、諸先輩方が「連携・協働」をスローガンに掲げられ、会員相互が情報共有・連携を大事にしながら、「仲間」として繋がり歩んでこられました。今年度、本会はその伝統を継承しながら、新たなスローガンを掲げました。

二　新スローガン：伝統の継承と新たな価値の創造をめざして

本年度より、全連小の次期スローガンも視野に入れつつ、新スローガン「自ら未来を切り拓き 多様な人々と響き合う 豊かな社会の創り手の育成～『つながり・学び合い・とどける』活動を通して～」を掲げました。これは、子どもたちが、不確実な時代を自分自身の可能性を信じ、他者と共鳴しながら新たな価値を創造し、持続可能な未来を築く主体者となることをめざしています。この理念を具現化する具体的な方法論として「つながり・学び合い・とどける」という三つのアクション基盤を昨年度に続いて活動の柱に据えます。

三　今年度の重点取組：組織の活性化と「見える化」

会員の研鑽を「しまねの子どもたちのウェルビーイング」へと還元するため、以下の三点に重点化します。**活動の「見える化」**：全連小や中国地区校長会、県理事会の有益情報を県校長会ＨＰ等で共有し、学校経営判断に寄与したいと思います。**縦横の「連携強化」**：全国や中国地区の研究大会や理事会へ参画して会員の声を届け、逆に広域的な知見を県校長会へ還元します。**「対話型」理事会**：県理事会を「報告」だけでなく「対話」の場へと転換し、情報交換を活性化します。

四　結びに代えて

校長同士が学び合い高め合う姿は、必ず教職員や子どもたちの豊かな学びと幸せに繋がると共に会員相互の連携を深めていくことになると考えます。

本会の活動が、各学校の充実と島根の教育の発展に寄与することをめざします。より一層のご協力をお願いいたします。

島根県小学校長会の存在意義

前島根県小学校長会長
佐藤　淳

島根県小学校長会長という身に合わぬ重職を拝命し、十分ではありませんが、何とか一年間その役割を果たせたかと思っています。すべて県内小学校長の皆様が県小学校長会の意義をご理解され、ご協力いただいたおかげです。ありがとうございました。八月出雲での研修会では、参加したグループ協議で特例任用のベテランの方と新しく昇任された方がともに学校経営を論じ合う姿に校長同士が「つながる」という意義を感じました。県教育委員会との意見交換会では校長の代表として教育現場の課題や取組そして皆様の想いを「とどける」ことができたかと思います。全国や中国地区の校長会に参加する中で日本全国の多様な実践に「学び合い」、学んだことを県内支部にいち早くお伝えする、あるいは定例の理事会もできる限り学び合う場となるように心がけました。これまでも、これからも、皆様にとって価値のある県小学校長会であることを願います。

さて、校長として最後の卒業式では、「ハチドリのひとしずく」という伝承について語りました。山火事に水を運び続けたハチドリの「私は私にできることをしているだけ」という言葉を子どもたちに送りました。四月より役職定年し、再度教育行政に身を置いています。ＢtoＢの仕事で、学校現場は見えないのですが、教育現場を応援すべく「私にできること」をしてご恩をお返しいたします。

つながりを広げ、深めながら

副会長
川本　徹
（松江市立川津小学校）

今年度、島根県小学校長会の副会長を務めさせていただくことになりました。片寄会長から示された理念と目指す姿、それを支える三つのアクション基盤「つながる」「学び合う」「とどける」を意識し、力不足ではありますが一年間、様々な事業に関わっていきます。

さて、県小学校長会組織の中で私が所属する調査研究部は、全連小調査研究活動への参加、三地区（中国地区・四国地区・九州地区）調査研究部会への参加、そして、県小学校長会研究大会・研修会の担当が主な業務です。特に今年度は八月、松江市で開催する研修会を行います。この研修会は、先輩方が一昨年度まで検討を重ねられ、今後、五年に一度の中国大会（兼県大会）の間に、一回の県大会、他の三回は研修会とする方針となったことから、始めるものです。

昨年度、試みとして行った出雲市での研修会の成果と課題を踏まえ、本年度は、事務局長からの県小学校長会理事会報告、三つの分科会での松江市、出雲市、仁多郡、三つの支部からの学校経営上の諸課題に関する提案発表とグループ協議を継続するとともに、県教育委員会との意見交換会で話題提供する内容の共有を新たに設定し、さらに情報共有が進むようにしました。

昨年、論点整理が示されましたが、ここでは、『「主体的・対話的で深い学び」の実装』『多様性の包摂』『実現可能性の確保』の三つの方向性を踏まえて議論を行うことが掲げられており、情報活用能力の向上、調整授業時数制度など、検討を重ねる内容が多くあります。これからの動向も注視しつつ、県内の校長同士がつながりを広げ、深めながら学校経営上の様々な取組を前進させる機会となる研究大会、研修会を今後も考えていきたいと思います。皆様、ご協力お願いいたします。

体験を重ね、視野をひろげて

副会長
川津康正
（大田市立大田小学校）

今年度、島根県小学校長会の副会長を務めさせていただくことになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

私は、令和六年度にこの島根県小学校長会に仲間入りをさせていただき、まだ校長三年目という未熟ものです。また、これまで島根県小学校長会の組織にも携わったこともなく、今年度が初めての体験となります。

さて、昨今の教育現場では、様々な課題があると感じています。中でも私は、ここ数年、不安をかかえる児童が多くなってきたように感じています。未知の体験に不安を感じる子、不安が先行し、挑戦を拒む子などが増えてきたように感じます。そのような児童が増えてくる中、私は子どもたちに体験とチャレンジを重ねることが大切だといつも話をしています。体験と挑戦は、知識や視野を広げ、豊かな心を育てます。そして、なによりも自信をつけることができると感じています。「動き出さなくては、景色は変わらない」誰しも未知の体験は不安が先行するものです。しかし、一歩踏み出し、まず体験をしてみることが大切だといつも感じています。

この度、こうして島根県小学校長会の組織に関わらせていただくことも、私にとっては、未知の体験です。しかし、島根県小学校長会の動きを知ったり、県内の様々な地域の校長先生方とお話をしたりすることが自分にとって知識や視野を広げ、自信をつけさせていただくことにつながると感じています。よい機会を与えてくださったことに感謝するとともに、微力ではありますが、皆様のお役に立てるよう、がんばっていきたいと思います。一年間どうぞよろしくお願いいたします。

「合理的」と「人間臭さ」

副会長
和泉雅史
（出雲市立灘分小学校）

今年度、島根県小学校長会の副会長を務めさせていただくことになりました。よろしくお願いいたします。

ＩＣＴ、ＳＮＳ、ＡＩ、私が教師になった時には聞くことのなかった言葉が毎日のように耳に入ってきます。これらの発達により生活は便利になり、情報も簡単に手に入る世の中になりました。こんな「合理的」な生活が当たり前になっています。これらのものがさらに発達していくと、将来は、今人間が行っている仕事の六～七割をＡＩが行っているのではという話も聞きます。

では、教師という仕事はどうなのでしょう。ＡＧＩが発達していけば確実にＡＩ先生は増えていくでしょ

う。では、「すべてがＡＩ先生になるのでしょうか？」私は、必ず人間の先生は残っていくと思っています。なぜなら、これからの世の中には「人間臭い」部分が必要で、「合理的でなくても挑戦したい」そして、「たとえ失敗しても、失敗から立ち直る力を育てる」ことができるのは、人間の先生だけが子どもたちにしてあげられることだと思うからです。学校経営の中でも、「合理的」と「人間臭さ」のバランスをうまくとりながら進めたいと思っています。

　これからの数年間の間に、校長会という組織もいろいろな面で変革していかなければならないと思っています。「人間臭さ」を残しつつ「合理的」な校長会にしてくことができるように、微力ながら頑張りたいと思います。

令和八年度　島根県小学校長会
事業計画

１　活動の基盤

(1)**つながる**　理事会・研修会等を通した会員相互の情報交換及びコミュニケーションの活性化により、島根の小学校教育及び小学校長会活動の充実を図る。

(2)**学び合う**　島根県小学校長会研修会・中国地区小学校長会研究大会・全連小校長会研究協議会への参加を通して、校長が学び合う機会を提供する。島根県小学校長会は、昨年度から研修会と会場持ち回りの研究大会を一定の間隔で実施するが、今年度は二年目となる研修会の更なる充実を図る。

(3)**とどける**　全国連合小学校長会や島根県教育委員会へ島根県小学校長会としての意見・提言を届ける。

　また、その全連小活動及び県教委施策等について会員相互の意見を交換し合う場を大切にする。

２　活動の重点

(1)活動の「見える化」を進める。

　全連小、中国地区小学校長会、県校長会理事会等での有益情報報告の充実→校長会ＨＰの更なる活用（タイムリーに伝えていく）

(2)「全国⇕中国地区⇕県」とのつながりを強化する。

　県の意見を全連小や中国地区校長会へ届けていく。

(3)県小学校長会理事会の一層の活性化

　報告だけでなく、情報交換の場を重視する。

３　事業内容

(1)活動の具現化、事業の推進を図るための校長会理事会、県教委との意見交換会他の会議の開催、関係団体の会議へ出席する。

①理事・評議員会（一回）、理事会（五回）、常任理事会（一回）を開催する。

②理事会は、総務、調査研究、対策、広報の四部会を構成し事業を推進する。

③第三回理事会開催に併せ、県教育委員会との意見交換会を実施する。

④県の関係団体、関係機関が主管する各種会合に役員等として精選して参加し、小学校教育の立場から意見を反映させる。

(2)学校経営に関する諸課題の解決に資するとともに、本県小学校教育の振興と校長としての職能向上を図るために、「島根県小学校長会研修会」を開催する。

(3)本県教育の充実を図るため、県中学校長会と「教育条件改善対策委員会」を組織し、関係機関と連携を密にしながら教育諸条件の改善・充実に努める。

(4)本会の諸活動を記録するとともに会員相互の連携を図るため「校長会報」を発行する。併せて、校長会ＨＰを通して諸活動の広報にあたる。

(5)教育計画や教育活動を記録する「教育記録」の編集を行うとともに、見直しを図る。

４　全国連合小学校長会、中国地区小学校長会との連携

(1)全国連合小学校長会と連携して教育課題を究明し、課題解決にあたる。

①総会や理事会および各種委員会や担当者会に参加し、全連小との連携を推進する。

②「小学校時報」、「教育研究シリーズ」等の購読を通して自己研鑽を深める。また、全連小の考え方や新しい教育情報、教育改革の動向、全国の校長会の活動を迅速に伝える「全連小速報」を活用し、学校経営に生かす。

③全連小と連携し、陳情・要望活動・実態調査活動を行う。

④「第七十八回全連小研究協議会北海道大会」に参加し、全国の小学校長会との連携や学びを深める。

(2)中国地区小学校長会と連携し教育課題を究明するとともに、その課題解決にあたる。

①理事会・研修会・連絡協議会（一回）、理事会・研修会（二回）に参加し、連絡調整を図る。

②「第七十三回中国地区小学校長会教育研究大会広島大会」に参加し、中国地区小学校長会との連携や学びを深める。

新任校長紹介とコメント

笑顔があふれ楽しくて幸せを
感じられる「持田“笑楽幸”」を、
職員、保護者、地域の方と
一緒に目指していきます。

青山　征司
（持田小学校）

「元気と笑顔のある学校」を目指し、
保護者・地域の皆様の
支えを大切にしながら、
よりよい学校づくりに努めます。

奥原　章公
（生馬小学校）

自分の考えをもち、探究し、
こころも体も元気な児童、
教職員集団が育つたくましい
学校経営が目標です。

上田　佳樹
（揖屋小学校）

「みんな　なかよし　みな元気」
を合言葉に学校、
地域が連携して教育活動を
進めたいと思います。

松本　英樹
（南小学校）

子どもたちも職員も
「明日もまた楽しみだ！」
と思える学校をめざします。

植田　道
（飯梨小学校）

教職員、保護者、地域の皆さんと共に
「明日も笑顔で来たくなる学校」を
めざします。

三浦 慶子
（母里小学校）

伯太に生まれ、伯太で育ち、
いよいよ故郷に恩返し…
子供たち、故郷のために尽くします。

野島 博行
（安田小学校）

ともに学び、ともに支え合い、
関わる全ての人が成長し続ける
学校づくりをめざします。

森山 知之
（寺領小学校）

「笑顔と感動を未来へ」、
みんなの笑顔と感動がつづく
学校づくりをめざします。

勝部 孝
（遙堪小学校）

教職員、保護者、地域の皆さんと
連携・協働しながら、
笑顔があふれる学校づくりを
すすめていきます。

曽田 史郎
（西日登小学校）

みんなが主人公。
子どもも大人も一人一人が
輝ける学校づくりに励みます。

打田　敦志
（来島小学校）

「自分もみんなも
楽しく・安全に・大切に」を
合言葉に、
「笑顔満開の学校」を創ります。

内田　誠
（頓原小学校）

閉校までの最後の１年、
子どもたち、
保護者・地域の方々、
教職員と共に笑顔あふれる毎日を
つくっていきたいと思います。

山本　裕子
（朝波小学校）

子どもたちを中心に、
教職員・保護者・地域の皆さんと
共に「きらめく松原小学校」を
めざします。

河本　誠二
（松原小学校）

教職員、児童、保護者、
地域みんなで
「ひびきあう仁摩小学校」を
創っていきたいと思います。

三浦　伝
（仁摩小学校）

子ども、職員、
保護者、地域みんなで、
笑顔あふれる学校づくり
に取り組みます。

鶴原　芳子
（川合小学校）

笑顔とチームワークを
大切にし
自分・仲間・ふるさとを
笑顔にできる学校をめざします。

竹岡　七重
（瑞穂小学校）

「元気よく登校！機嫌よく下校！」
を合言葉に、
みんなで笑顔いっぱいの
学校づくりをめざします。

江角　貴行
（七日市小学校）

自然豊かな朝倉小で、
子どもたちに関わるみんなが
笑顔で過ごせるような
学校づくりに励みます。

植田　充一
（朝倉小学校）

子どもたちと教職員の
「やってみたい」が
「やってみる」になる
学校を目指します。

角脇　幸子
（磯小学校）

学校紹介

恵まれた環境を生かし、しっかり学ぶことができる学校に

山本芳正
（出雲市立朝陽小学校）

朝陽小学校は、出雲市の北東部、宍道湖沿い位置しています。令和三年四月に、檜山小学校、東小学校が統合してできた本校は、今年度開校六年目をむかえます。

本校の特徴の一つ目は、校区にある施設等と連携した教育活動です。徒歩十五分のところにある宍道湖グリーンパークに出かけ、樹木や草花、野鳥などの観察を行ったり、施設職員の方から宍道湖周辺の自然環境について話を聞いたりしています。学校の目の前には、一畑電鉄「湖遊館新駅」があり、電車を利用して、市内外への社会科見学に出かけることもできます。冬には、徒歩二十分で行ける湖遊館でのスケート教室です。一年生と六年生、二年生と五年生、三年生と四年生がペアとなって、上級生が下級生の世話をしながら、スケートを楽しみます。

二つ目は、宍道湖やその周辺の自然を教材とした教育活動です。四年生は毎年、宍道湖に流入する河川（荒藻谷川（かりもだにがわ））を題材に環境学習を行っています。地域の方から昔の川の様子、川と生活との関わり等の話を聞きます。併せて、上流、中流、下流の水質や生物調査、河口の漂着物調査を行い、河川の環境を分析します。環境の専門家の話、上下水道の仕組み等も学びながら、河川と自分たちの生活とのつながり、よりよい環境のためにできること等を考えていきます。学んだことは、学習発表会で保護者や地域の方へ伝えたり、コミュニティセンターで発表会をしたりします。五年生は、地域の産業である宍道湖でのシジミ漁について調査活動を行います。宍道湖漁業協同組合の協力で、実際に宍道湖でシジミ漁の船に乗り、シジミ漁体験を行いながら、漁師の皆さんの思いや漁の工夫・努力等を学びます。こうした活動を通して、地域の自然・産業等への興味関心を高めるとともに、ふるさとへの愛着と誇りを育んでいます。

また、教職員のゆとりを生み出し、教育の質を高めるため、毎週水曜日は午前中四時間授業とし、午後一時四十分には完全下校となります。教職員は、長い放課後に教材研究や情報交換を行うことができるとともに、気持ちの上でもゆとりを感じることができています。

今後も、地域の豊かな環境を十分に活用するとともに、教育の質を高める取組を進めていくことにしています。

六つの絆で歴史を紡ぐ

三島啓介
（奥出雲町立仁多小学校）

この春、奥出雲町仁多地域の六校が再編統合し、「仁多小学校」が開校しました。十四学級二百四十八名の子どもたちが、できたばかりのぴかぴかの校舎で元気に生活しています。

この校名は、町民を対象としたアンケートで圧倒的に得票が多かったもので、地域の皆さんの「仁多」に対する愛着の強さがよくわかります。

「仁多」という地名の由来は、出雲国風土記にあるという説が有力です。なんでも、この地を訪れた大国主命が、「是は爾多志枳小国（にたしきおくに）なり＝潤いのある肥沃なすばらしい土地だなあ」とほめたのだとか。現在、仁多米の品質が高く評価されているのも当然かもしれません。

また、世界で唯一、たたら製鉄の炎を守り続けている町でもあり、豊かな歴史と環境、加えて温かな地域の人に恵まれた地域です。

この春の開校に向けては、三年以上にわたって様々な準備を重ねてきました。その中で保護者や地域の方との会合を重ねるたびに、新しい学校への期待が強まっていったことをよく覚えています。（それに比例して、こちらが感じるプレッシャーもどんどん強くなりましたが。）

この間の記録は、片手では持ち上げられないほどの分厚いファイルとして、校長室の書棚の一画を占めています。この先、何か迷いが生じるようなことがあれば、この資料を紐解き、初心に返ろうと思っています。

幸いなことに、町教育委員会の指導や、再編前の各校の先生方の綿密な準備のおかげで、順調な滑り出しができました。六つの地域の絆を土台として、新たな学校の歴史を紡いでいける喜びを胸に抱きながら、子どもたちも教職員も張り切って生活しています。

学校の合言葉は、「ちょんぼしずつ、ちょんぼしずつ」。一歩一歩は小さくとも、それぞれの夢に向かって着実に進んでまいります。

朝礼講話

あきらめずにやりぬこう

伊達　悟
（松江市立朝酌小学校）

九月は、世界中の陸上競技の選手が集まって競い合う大会、世界陸上がありました。たくさんの競技があって、毎日すごいなあと思って見ていました。とても印象に残った競技を紹介します。男子１１０ｍハードルです。

この競技に参加した日本の選手で泉谷俊介選手がいます。

準決勝第一組、スタートしました。泉谷選手もいいスタートでした。でも一台目を倒してしまいます。二台目も三台目も、ひっかかりながらも走り抜けました。しかし、四台目にもひっかかってしまい、さらにころんでしまいます。ほかの選手はどんどん進んでゴールしました。一位は十三秒です。泉谷選手は、もうあきらめたかなと思った時、一人ゴールした選手がいました。泉谷選手でした。タイムは二十九秒。当然びりです。

でも、最後まであきらめなかった。すごく負けていても、タイムも全然遅くても、あきらめずに最後まで走りぬきました。そして、最後に走ったグラウンドに礼をして競技を終えました。あきらめない、というのはこういう姿だなあと思いました。これこそ、みんなに真似してほしい姿だと思いました。

そう思っていたけど、朝酌小のこどもたちはこういうことをちゃんとしていました。ちょうど五年生がハードルと同じような勉強をしています。引っかかって転ぶ人もいます。でも、誰もあきらめずに最後まで走って、次もまた走り出していました。ちゃんと朝酌小にもあきらめずに最後までやりぬくこどもたちがいました。本当に立派です。こんな姿を全校のみんなで真似してほしいです。もちろん、目標は一位だと思います。成功したい。でも、成功しない時もあきらめないことが、自分を強くするよと言いたいです。

このあと、はばたきを受け取ります。◎、○、△、いろいろな評価があると思います。一つ一つの項目について、どんなことをがんばっているのか、どんなことをこれからがんばったらいいのか、考えてほしいです。

みんなは、昨日まで本当によくがんばっています。明日からも続けてほしいです。そしてハードルをこえるみたいに、自分をこえることに挑戦してみてください。

じんけんってなあに？

房野伸枝
（益田市立東仙道小学校）

みなさん、「人権」ってなんだか知っていますか？昨日「人権の花」をみんなで植えましたね。添えたみなさんのメッセージには「人にやさしく」「親切に」とありました。どれも人権を守るためにとても大事なことです。人権は、やりたいことを自由にできたり、やめたりできる力のこと。誰もがもっている、幸せになる権利のこと。権利って、難しい言葉ですが、自分らしく生きるために誰もが与えられているもの、例えば、勉強する権利、好きなものを食べる権利、嫌なことをされた時はやめてって言える権利、いろいろあります。

でも、自由に言いたいことが言える権利はあっても、悪口を言って人を嫌な思いにすることは許されません。それはいじめです。それは絶対にしてはいけないことです。

東仙道小学校のみなさんには、お互いを思いやって、やさしい気持ちで接して欲しいと思います。でも、やさしさや人権って、目に見えませんよね。どうやったら相手への思いやりが見えるようにできるのでしょう？実はすぐにできることがあります。それは、話をするとき、聴くときには、相手の顔を見ながらするということです。ちゃんと顔を見ながら話したり、聴いたりすると「あなたを大事に思っているよ」ということを伝えられます。そして、聴いているときは、返事や反応をする。うなずいたり、質問したり、相手の話を一生懸命聞く態度を示すこと。あいさつをするときにも顔を見て元気にすると、相手を大切にしていることが伝わって、お互いに気持ちよくなります。さらに笑顔でできたら最高ですね！

今日は午後、観劇もありますが、大きな拍手を送るのも、演技をしてくれた方へのリスペクト、敬意、よかったよ！ということを表すことになります。みんなが受け取った感動を大きな拍手で返しましょう。

これからも、やさしさや思いやりを目に見える形で表して、人権を大切にする、東仙道っ子でいきましょうね。

令和８年度　島根県小学校長会　役員表

役　名	校長名	勤務校
会　長	片寄泰史	内中原
副会長	川本　徹	川　津
	和泉雅史	灘　分
	川津康正	大　田
監　事	杉谷　崇	八　雲
	山本　薫	大　東

役　名	校長名	勤務校
全連小理事	片寄泰史	内中原
	川本　徹	川　津
全連小代議員	和泉雅史	灘　分
	川津康正	大　田
中国地区副会長	片寄泰史	内中原
中国地区理事	川本　徹	川　津
	濵岡宏行	出雲郷

理　事

市郡名	会員数(学校名)	理事名	評議員名	対策委員名
松　江	31	井上孝弘（忌　部）	杉谷洋美（本　庄） 杉谷　崇（八　雲）	池田哲也（古　江）
安　来	16	㊜井上浩子（能　義）	（理事兼務）	糸賀昭雄（赤　屋）
出　雲	29	秦　康人（出　東）	永瀬義美（荒　木） （理事兼務）	㊥樋野育司（神戸川）
雲　南	15	㊜古川善正（加　茂）	山本　薫（大　東）	飯塚　積（鍋　山）
仁　多	2	三島啓介（仁　多）	（理事兼務）	㊥千原一弘（横　田）
飯　石	4	内田　誠（頓　原）	（理事兼務）	㊥打田敦志（来　島）
浜　田	15	㊍佐藤安治（三　隅）	伊津洋士（石　見）	伊津洋士（石　見）
大　田	11	橋井泰治（長　久）	（理事兼務）	筆谷俊之（大　森）
江　津	7	土井伸一（津　宮）	白井朋己（郷　田）	㊥白井朋己（郷　田）
邑　智	11	㊜上田忠則（石見東）	中村卓夫（口　羽）	㊥髙木　優（阿須那）
益　田	14	㊜田中茂秋（高　津）	房野伸枝（東仙道）	㊥瀬戸　洋（吉　田）
鹿　足	9	北野憲民（津和野）	（理事兼務）	小田川　治（木　部）
隠　岐	9	㊜熊本直宏（有　木）	元上　治（海　士）	㊥若本　剛（都　万）

（会員数 173）　　㊜印　常任委員会 理事　　㊍印　教育条件改善対策委員会 理事　　㊥印　小・中代表

事務局幹事

校長名	勤務校	会務分掌	所在地	☎・FAX
伊藤　英俊	法　吉	対　策	690－0863 松江市比津町532	0852-21-4354 FAX 0852-21-4359
杉原　孝尚	竹　矢	調査研究	690－0025 松江市八幡町379-1	0852-37-0535 FAX 0852-37-2814
石橋　裕子	宍　道	調査研究	699－0401 松江市宍道町宍道1276	0852-66-0352 FAX 0852-66-0565
槇野　吉人	鹿島東	対　策	690－0804 松江市鹿島町北講武599	0852-82-0309 FAX 0852-82-0814
吉田　卓矢	大　庭	広　報	690－0033 松江市大庭町1074	0852-21-4239 FAX 0852-21-4311
川崎　隆祥	城　北	広　報	690－0871 松江市東奥谷町229	0852-21-4944 FAX 0852-21-4980

校長名	勤務校	会務分掌	所在地	☎・FAX
金山　剛志	島　根	対　策・ 事務局次長	690－0401 松江市島根町加賀1325-1	0852-85-2018 FAX 0852-85-2134
小室由希江	恵　曇	広　報	690－0323 松江市鹿島町手結201	0852-82-0065 FAX 0852-82-0931
上田　佳樹	揖　屋	調査研究	699－0101 松江市東出雲町揖屋2131-3	0852-52-2007 FAX 0852-52-2273
濵岡　宏行	出雲郷	総　務・ 事務局長	699－0108 松江市東出雲町出雲郷926	0852-52-2069 FAX 0852-52-3846
建岡　浩子	事務局	総　務・ 事務局員	690－0886 松江市母衣町55 島根県教育会館内	0852-27-8530 FAX 0852-67-3360

事務局　〒690－0886 松江市母衣町 55 島根県教育会館内　　TEL（0852）27－8530　FAX（0852）67－3360
E-mail：shimane-syo@gold.ocn.ne.jp